

【巻頭言】

旅にでよう



監事 八木勝己(55 回生)

私は、学友会理事会監事の八木勝己です。

今回、松江市に旅する機会があり、数年前に学友会総会が行われた近辺を散策する機会がありました。

そこで、学友会総会の開催について改めて経緯等について知りたくて記載します。島津学園 85 年史編纂委員会が「学友会の変遷」について纏めていらっしゃいますので、一部参考にしております。

全国総会は、2 年に 1 回、地方と京都で交互に開催されています。元々は、春の日本放射線技術学会総会に合わせて横浜、神戸で開催されていました。しかし、関東・兵庫両支部の負担が大きく、また参加メンバーも学会参加者に偏っていました。

そこで、平成 9 年度(1998 年 4 月開催)の全国総会の際、総会開催検討委員会の提言を受け承認変更されました。この開催形式が提案された背景には、会計年度や役員任期に合わせて運営上好都合です。また各支部の活動が活発に行われることで参加者の増加が期待されたことにありました。

新形式での全国開催履歴は、2001 年長野県松本市(甲信支部)、2005 年愛媛県松山市(四国支部)、2009 年岐阜県高山市(東海支部)、2013 年福岡県福岡市(福岡支部)、2017 年島根県松江市(山陰支部)、2023 年広島県広島市(広島支部)でした。2025 年には、奈良県奈良市(奈良支部)において開催予定です。

ここで旅というものを再考してみます。元来、旅は狩猟採取時代(旧石器～縄文あたり)の食糧を採取し、気候変動や天災から身を守るための「生きる旅」がメインでした。飛鳥～奈良時代は、国の防衛や納税のために必要な「強制される旅」でした。平安時代になりようやく現代のように「自ら好んでいく旅」になりました。しかし、僧侶による修行や巡礼といった宗教上の信仰が目的とされる熊野詣が盛んでした。室町時代には、信仰の中心は三重県の伊勢神宮と移っていき、江戸時代に入り「お伊勢参り」と呼ばれるお参りが大流行して、レジャーとしての観光が庶民に広がり、交通インフラも整備されました。

現代に至っては、多くの目的を持って個人が旅をしているように思われます。美味しいものを食べ、絶景と呼ばれる景色を見たりします。また、自分を見つめ直して、さらなる自分の内面を広げ、経験値を増やして自身の世界を拡張したいと考え、それぞれにある潜在的なものを充実させているように思えます。

私自身の旅をみても、海外で言葉の壁を痛感したが、多くの人の親切を知ることができた旅であり、行くとたびに英語力を身に付けようと思わされるものでした。さらに、次にこんなこともしてみたいと写真をみながら回顧することが多いです。

道中は眼から入る遺跡、景色、建物を知り、人との会話のなかで人のやさしさに触れることができた。旅とは、帰る場所があって、離れた土地に出かけるものです。

日本についてみると、学会に地方に出かけていた記憶はあるが、国内には多くの知らない場所が存在しています。もっと自分を知るうえでも多くの地方に旅して人と歴史にふれていきたいと考えています。また、観光写真にはない、ちがう面からみた私自身に見える写真を撮ることにこだわっています。

2025 年 5 月 10 日(土)の総会は、奈良支部で JR 奈良駅前(ホテル日航奈良)にて開催されます。

日頃の生活圏から離れて、ちがうところへの旅のついでに参加してみてください。

以上